令和３年度　学校自己評価計画

石川県立金沢西高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	判定基準	備考
1	ＧＩＧＡスクール構想推進を踏まえ、ＩＣＴの効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、生徒の主体的な学びおよび確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	①	研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動を取り入れた授業を実施する。	教務課	オンライン授業を行うなど、ＩＣＴを活用した授業改善が進み、生徒による後期授業評価アンケートの「効果的なＩＣＴの活用など工夫された授業が行われている」の項目で肯定的評価は８４％であった。ＧＩＧＡスクール構想の推進により、さらに充実を図る必要がある。	【努力指標】 これまで以上に全教員がＩＣＴを活用した授業を実践し、研究授業や相互参観授業に取り組み、授業評価におけるＡ評価を５５％以上にする。	効果的なＩＣＴの活用など工夫された授業が行われているの項目においてＡ評価が Ａ　６０％以上 Ｂ　５５％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による授業評価アンケートで評価
					生徒による後期授業評価アンケートの「授業を通じて学力がついてきている」の項目で肯定的評価は７８％であった。主体的・対話的で深い学びを追究し、生徒が達成感を味わえるように授業改善が行われている。	【努力指標】 学力がついてきているという肯定的評価が高まり、成績に反映するようにこれまで以上に、主体的・対話的で深い学びとなる授業に取り組む。	授業を通じて学力がついてきているという肯定的評価が Ａ　８５％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による授業評価アンケートで評価
		②	「総合的な探究の時間（西高SDGsプロジェクト）」の活動を通して、主体的・探究的・協働的に学び活動する態度を養う。	進路指導課	昨年度１年生は９６％と高評価であったが、２年生が８７％であった。	【満足度指標】 生徒がプロジェクトに対して年間を通じて主体的・探究的・協働的に取り組むことができたと感じている。	生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が Ａ　９５％以上　　Ｂ　９０％以上 Ｃ　８５％以上　　Ｄ　８５％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の振り返りの時間にアンケートを実施して評価
		③	家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。	教務課	生徒による学習時間量調査の結果によると、目標を達成している生徒の割合は２９％であった。２年生を中心に改善のための方策を検討していく必要がある。	【成果指標】 目標とする家庭学習時間を「学年＋１時間」に設定し、達成する生徒の割合を３０％以上にする。	家庭学習時間が「学年＋１時間」に達している生徒の割合が Ａ　４０％以上 Ｂ　３０％以上 Ｃ　２０％以上 Ｄ　２０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	家庭学習時間量調査で評価
		④	校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける	進路指導課 １・２学年	昨年度１月の校外模試で３教科型偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合は、１年は３８％、２年は３４％であった。	【成果指標】 １、２年１月の校外模試で３教科型偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が、３５％以上を目指す。	１，２年１月の校外模試３教科型偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が Ａ　３５％以上　　Ｂ　３０％以上 Ｃ　２５％以上　　Ｄ　２５％未満 ※１・２年別に達成度を判断する	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	当該模試の結果で評価
				進路指導課 ３学年	昨年度３年は１０月校外記述模試で平均偏差値５０以上の生徒、１１月共通テスト模試で総合偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が、それぞれ２２％、１２％であった。	【成果指標】 ３年１０月校外記述模試で平均偏差値５０以上の生徒、１１月共通テスト模試で総合偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が、それぞれ３０％以上を目指す。	１０月の校外記述模試平均偏差値５０以上の生徒の受験者全体に対する割合が Ａ　３０％以上　　Ｂ　２０％以上 Ｃ　１５％以上　　Ｄ　１５％未満 １１月の共通テスト模試総合偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が Ａ　３０％以上　　Ｂ　２０％以上 Ｃ　１０％以上　　Ｄ　１０％未満		
		⑤	進路学習・探究活動を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	進路指導課	昨年度の合格者数は①金沢大学７名、②北信越地区国立大学３２名、③北信越地区公立大学４０名であった。	【成果指標】 右の①～③の評価項目をすべてクリアすることを目指す。	①難関国立大学、金沢大学に５名以上合格 ②北信越地区の国立大学に２０名以上合格 ③北信越地区の公立大学に３０名以上合格 Ａ　３項目クリア　　Ｂ　２項目クリア Ｃ　１項目クリア　　Ｄ　クリアなし	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
2	組織的な教育活動を通して、生徒の規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	①	挨拶運動を通して生徒会執行部と協力し合い、学校全体の活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う。	生徒課	昨年度は、生徒アンケート結果から９４％の生徒が積極的に挨拶を行ったと自己評価していた。若干甘い自己評価であったと感じているが、新入生を迎え、新年度の生徒として挨拶の習慣化を更に定着する必要がある。	【成果指標】 学期ごとに行う生徒アンケートで、すべての学期で９０％以上生徒達が挨拶を実行できていると評価できた場合、目標達成とする。	令和３年度生徒アンケートから、いろいろな人に自ら発して伝わる挨拶ができたが Ａ　９５％以上　　Ｂ　９０％以上 Ｃ　８５％以上　　Ｄ　８５％未満	Ｃ、Ｄの場合、指導方法を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
		②	様々な交通安全指導から、自転車乗車マナーの向上を意識し、交通社会の一員としてルールの遵守、安全への配慮等、事故防止に向けた注意力、判断力を身に付けさせる。	生徒課	令和２年度累計の自転車乗車違反件数が７件と昨年度の１５件より半減以下となったことは評価できる。令和３年度も継続して自転車乗車のルールやマナーを徹底させていきたい。	【成果指標】 年度末の自転車乗車違反件数累計において、今年度も違反件数一桁を目指すとともに、最低１５件以下で目標達成とする。	自転車乗車違反件数が、年度末累計で Ａ　１０件未満　　Ｂ　１５件以下 Ｃ　２０件以下　　Ｄ　２１件以上	Ｃ，Ｄの場合、学年累計を分析し、次年度の当該学年の指導を徹底する。	年度末の実績で評価
		③	いじめは絶対に許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。また、未然防止に取り組みながら、居心地の良い学校づくりに努めていく。	生徒課	昨年度、いじめ件数について認知することはあったが、生徒アンケートの「互いに尊重し合える居心地の良い学校であるか」の問いかけには９１％の生徒が「はい」という回答であった。	【成果指標】 左記の生徒アンケート結果において９０％以上の生徒達が居心地の良い学校であると回答すれば、達成とする。	互いを尊重できる居心地の良い学校であるかのアンケートから、肯定的評価が Ａ　９５％以上　　Ｂ　９０％以上 Ｃ　８５％以上　　Ｄ　８５％未満	Ｃ，Ｄの場合、評価結果を分析し、指導の在り方や方策を検討する。	生徒による学校評価アンケートで評価

		④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	保健相談課 各学年	健康診断の結果、歯科受診率が低い。昨年度からの取り組みで歯科受診率は５０．４％で改善傾向にあるがまだ低く、健康課題に関する意識も低い傾向が見られる。	健康診断後の事後措置を徹底するとともに、生徒の健康課題意識を向上させ、個別指導等で受診率の向上を図る。歯科受診率を前年度以上とする。	歯科の受診率が Ａ　７０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
３	文武両道の実践のもと、部活動の効率的な活動と更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部ともに挨拶などの規範意識の醸成を図りながら活動内容を充実させる。	生徒課	１年生においてはほぼ１００％に近い加入率となっているが、全体としては８５％の加入率となっている。３年間の継続を目標にさらに限られた時間を有効に使い、内容を充実し、生徒が達成感を感じられるような活動にする必要がある。	【満足度指標】 部活動加入者に対するアンケートの満足度を７０％以上にする。	充実感や達成感を感じられる部活動が行えているかの肯定的評価が Ａ　８０％以上　　Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上　　Ｄ　６０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による学校評価アンケートで評価
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	生徒課	令和元年度の県高校総体総合成績が女子は１１位、男子は１６位以下であった。課題を自ら考え、結果へとつながる練習をする必要がある。	【成果指標】 （運動部）県高校総体総合成績の順位によって評価する。女子は１０位以内、男子は１５位以内を目標とする。 （文化部） 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数によって評価する。	（運動部） 県高校総体総合成績が Ａ　１０位以内　　Ｂ　２０位以内 Ｃ　３０位以内　　Ｄ　３１位以下 （文化部） 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が Ａ　２０枚以上　　Ｂ　１５枚以上 Ｃ　１０枚以上　　Ｄ　１０枚未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
４	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	教務課 総務課 各学年	保護者による学校評価アンケートの結果によると、肯定的評価は８８％であった。	【満足度指標】 学校の情報提供による満足度を８５％以上にする。	学校の情報提供は十分に行われているという保護者が Ａ　９０％以上　　Ｂ　８５％以上 Ｃ　８０％以上　　Ｄ　８０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	保護者による学校評価アンケートで評価
					昨年度、教育ウィーク時の保護者の来校者数はのべ５３６名であった。	【努力指標】 教育ウィーク、進路説明会等の来校者数を増やす。	教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数が Ａ　８００名以上　　Ｂ　６００名以上 Ｃ　４００名以上　　Ｄ　４００名未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
		②	各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	総務課	昨年度２月末までの図書館の貸出冊数は、生徒１人当たり３．５冊であった。	【努力指標】 生徒の読書活動を促進する。	図書館の貸出冊数生徒１人あたり１月末までで Ａ　４冊以上　　Ｂ　３冊以上 Ｃ　２冊以上　　Ｄ　２冊未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
		③	学年・委員会・部活動による地域貢献や学校行事のサポートを行い、ボランティアへの関心を高める。	生徒課	ボランティア委員が金沢マラソンのボランティアに参加している。また、学校行事の受付や案内係等を有志の部活動で行っている。	【努力指標】 生徒のボランティアへの関心を促進する。	ボランティア活動に参加した学年・委員・部活動が Ａ　５つ以上　　Ｂ　３つ以上 Ｃ　２つ以上　　Ｄ　１つ以下	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
５	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務縮減に向けて勤務時間を適正に管理し、また、ワークライフバランスを意識した業務改善につながる学校マネジメントを推進していく。	①	ワークライフバランスを常に意識し、校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。	教頭	昨年度の教職員へのアンケート結果は５４％であった。昨年度の６４．５％から下がる結果となった。その要因として、感染症対策や休校期間中の学習支援等、これまでにない対応を求められたことがあげられる。 時間外勤務の平均時間や月８０時間超の人数は減少しており、多忙化改善に向けた教職員の意識は向上している。 感染症対策を講じた上で、教育の質を落とさず、時間外勤務を縮減させる具体的な取組を実践する必要がある。	【努力指標】 具体的な取組を提案・実践し、教育の質を落とさずに時間外勤務を減少できた教職員の割合を増加させる。	具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　４０％以上 Ｄ　４０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	教職員へのアンケートおよび勤務時間調査で評価